

令和元年度 ガイドライン評価改善シート

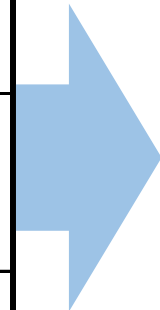
施設名 ( 八反畑園 )

作成日時 ( 令和 元 年 9 月 30 日 )

代表	施設長	本部
印		

改善への取り組み	・将来に繋がる活動、課題を組み立てるためにアセスメントを基に始め、TEACCHシステムを取り入れて支援していき、取り組みについては掲示、書面で保護者に伝える。 ・保護者からの意向、苦情等は迅速に対応しスタッフ間で共有し対応する。 ・スタッフ間の報告、情報共有、意見交換の時間を設ける
今年度の施設目標	<b>TEACCHのシステムを取り入れながら、将来に繋がる活動、課題を取り入れる</b>

項目	保護者評価、事業所内評価を踏まえた上での共通点	保護者評価、事業所内評価を踏まえた上での相違点
環境・体制整備	・バリアフリー化の配慮が十分とは言えない ・利用人数により、活動スペースが十分に確保できていない時がある。	・保護者からは、職員の配置数は適切であるの評価もあったが、高学年が増え、下校時間が重なることが増えたため、一時的に不足になることがある。
業務改善	・スタッフの資質の向上を行うために、月1回のスタッフミーティングや研修の機会を確保している。	・スタッフに対して、支援方針・支援目標・振り返りについての周知ができていない。
適切な支援の提供	・利用児の状況に応じて、個別活動と集団活動をしている。	・平日、長期休暇などの時間内での課題や活動が十分でない。 ・年齢、進路、特性に対しての課題が設定できていない。
関係機関や保護者との連携	・支援級の子の様子は送迎時に伺い、情報共有や連絡調整を行っている。 ・保護者に活動内容や状況を伝え、家庭や学校での対応なども共有するようにしている。	・中高生の進路先や就労先の情報共有や連携ができていない。 ・普通級の担任の先生とは会う機会がなく、情報共有ができていない。
保護者への説明責任等	・支援内容についての面談などには時間を十分に取、現在の状況やこれから課題にしていくことを、共通理解になるようにしている。	・利用児や保護者からの相談、苦情には迅速に対応するようにしているが、情報や状況に対しての説明が保護の意思に沿っていない。
非常時等の対応	・スタッフ間でヒヤリ・ハットの事例を共有し、虐待防止・身体拘束について意識し、支援をしている。 ・緊急時の対応についてのマニュアルが周知、説明が十分でない。	・避難経路や避難訓練に関しては、ブログや施設内に掲示をしているが、認知されていない。



分析検討してみたの事業所の強み
<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用児の興味、関心があることを利用児の状況や子供の相性に合わせて個別活動と集団活動を組み合わせて活動している。</li> <li>・職員の資質向上のために、外部コンサルティング、スタッフミーティング、実践報告会等の研修の機会を確保している。</li> </ul>

分析検討してみたの事業所の改善点
<ul style="list-style-type: none"> <li>・施設内外での買い物、カフェ、清掃活動などの社会・仕事体験を増やしていく。</li> <li>・支援計画、支援目標で特に注目する部分を抽出しスタッフと共有し、支援していく。</li> <li>・利用児や保護者からの相談、苦情には常勤が迅速に対応し、情報や状況を明確に説明する。</li> <li>・非常災害の対応・取り組みを施設内掲示やブログだけでなく、保護者に非常対策手引の配布、個別支援計画に明記する。</li> </ul>

事業所の改善への取り組み
<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会生活・社会のルールの習得や将来の仕事に繋がる活動(買い物体験、カフェ体験、清掃活動、など)を個々に役割分担をしていくなどして経験の中から自信を持って出来ることを増やしていく。</li> <li>・支援計画、支援目標で特に注目する部分を抽出し、スタッフと共有し、支援していく。</li> <li>・スタッフ研修には、ミーティング・研修動画を用いてスキルアップしていく。</li> <li>・利用児や保護者からの相談、苦情には常勤が迅速に対応し、情報や状況を明確に説明する。また、非常災害の対応・取り組みを施設内掲示やブログだけでなく、保護者に非常対策手引の配布、個別支援計画に明記し、説明する。</li> </ul>

自己評価を行っての事業所としての感想など
<p>中高生や、小学生の高学年の割合が増えたため、社会生活・社会のルールの習得や将来の仕事に繋がる活動の要望が多くでてきている。社会生活・ルールの習得はプログラム活動や日常のやり取りの中で経験を積んでいくしていく。</p> <p>将来の仕事に繋がる活動については、興味あること、出来ることを取りいれて、利用児が積極的に取り組めることから始めていく。</p>

来年度の施設目標	<b>TEACCHシステムを基に、将来を見据えた経験・体験の中から自信が持てる活動を選択できるようにしていく</b>
----------	--